

堀内先生

お世話になります。

本日、避難所部隊に参加した薬剤師の報告を抜粋してお知らせいたします。

避難所では薬が無くなったという人が非常に多く、1～2日分を処方してお渡ししたようです。その際、調剤薬局でお薬手帳や薬袋等の、何を処方されていたかがわかるものを提示すると、お薬を受け取ることができると説明しましたが、調剤薬局側でもそれを知っているところがなく（基本的に通信が遮断されているので、厚労省がwebに掲載しても、県の薬務課等に通知しても、現場では知りうる手段がない）、それが避難所の被災者の病状の悪化に一役買っていることは間違いないうえ、トリアージに対応している拠点病院の薬剤師業務量を増大させているようです。避難所では降圧薬やプレドニン、抗精神薬、血糖測定器がかなり必要で、DM薬を飲んでいるのに栄養状態が悪く、めまいを訴える人もいたそうで、そのほか胃腸炎、腹痛、便秘なども多かったようです。今回は車の乗車人数の制限から5つの部隊のうち2つにしか薬剤師をつけなかったが、医師も専門外の治療に関する処方が必要になるため、薬に関して何でも相談できる薬剤師と一緒に部隊に参加していることがとても大事だと言っておりました。専門外の薬の使い方のほかにも、代替薬なんかの相談も多かったようで、医師からは薬剤師がいることで2倍の患者を診察できると言われました。明日は大型バスがチャーターできましたので、5つの部隊すべてに薬剤師を配置することにしており、まだ救護部隊の到着していない避難所などを中心に活動することになりそうです。

当院への医薬品の供給は相変わらず不安定で、通常に比べてまだ50%以下のものしか入ってこない状況です。にもかかわらず前線部隊にかなりの薬（特に内服剤）を持たせる必要があります。したがって、緊急措置として院内では注射薬は物流請求にのみ対応する形をとっており、内服・外用剤等は基本的に2日分の緊急処方のみ、退院処方でも最大3日分として、前線に送る医薬品を確保しております。通常の業務の多くを停止しており、派遣する薬剤師の確保や救急対応を優先している状況です。

石巻日赤では薬剤師が圧倒的に足りないと訴えてきております。未確認情報ですが、明日、秋田県病薬から3名の薬剤師が石巻日赤に合流すると聞いております。現在3交代制でシフトを組んでいるようですが、本来院外に出していた処方についても門前の調剤薬局が対応しきれないために院内で調剤しているそうで、上記の厚労省情報がきちんと伝わっていればかなり違っているだろうと想像しております。当院でも本日は石巻日赤に2名の薬剤師を派遣しましたが、当院の3分の1の規模の病院が2600名以上のトリアージをさばいておりますので、おそらく寝る間もなく働いているのだらうと思います。

これからは感染症への対応が重要になってくると予想しています。また、精神科の医師の要請がかなり多くなっております。まだまだこの状態が長く続くと思いますが、自分に何が出来るかをしっかりと考えて行動したいと思っております。

今後ともご支援とご指導をよろしくお願いいたします。

眞野成康

眞野成康 東北大学病院教授・薬剤部長

〒980-8574 仙台市青葉区星陵町1-1

差出人: "Nariyasu Mano"

日時: 2011年3月16日 15:01:19JST

お世話になります。

すでに報道等でご存じと思いますが、前線では医薬品を含む医療資材、物資が完全に不足しております。医薬品の供給体制は不安定でかつ十分ではありません。その原因は運送に関する燃料不足等が主なものです。メーカーから卸の配送センターへの運送、配送センターから仙台支店への運送、仙台支店から各医療機関への運送のいずれも極めて厳しい状況です。仙台の卸の倉庫は壊滅的な打撃を受けておりますが、それでも崩れた医薬品の山からかき集めて自転車で当院まで運んでくれているような状況です。本当であれば、ヘリでも使って必要な医薬品をこちらに運ぶように厚労省あたりに手配してほしいところですが、国の縦割り組織は残念ながらそういうところはとても苦手なようです。現在、文科省や厚労省、その他学会等あらゆる手段を使って当方に医薬品を集約する努力をしております。現在、宮城県は情報収集に追われていて医療体制を構築するところまで至っておりませんので、東北大学病院が前線の石巻赤十字病院や気仙沼市立病院と連携しながら、医療体制の構築を進めているところです。したがって、本院から毎日数十名規模の医療チームが前線に派遣され、本日は石巻赤十字病院に薬剤師を2名、石巻の避難所の救護班にも薬剤師を2名動員して医師らとともに活動させております。前線の医療機関でも当然のことながら医薬品が不足しておりますが、通信手段が確立されていないためにその状況把握が厳しく、想像しながらこちらに必要な医薬品をピックアップして医療チームに持たせているような状況です。

今回は、地震で崩れた建物の下敷きになった人が津波にのみこまれるような形で被害に遭われているケースが多く、どちらかといえはすでに亡くなっている方が圧倒的で、重症の患者の域外への搬送はもともと被災地の病院に入院している患者が中心です。現在は、特に断水の影響もあって透析の患者が危険な状態になっており、当院を含めて県内数か所ですべての患者を引き受けているような状況です。当然、関連する薬剤も不足しております。また、これからは非難されている方々のケアが重要になると思いますので、経口抗菌剤や降圧剤等が必要になるだろうと思っています。

他県についてはあまり情報がありません。岩手県も福島県も沿岸部がどうなっているのか心配です。

以上です。よろしくお願ひします。

眞野成康

眞野成康 東北大学病院教授・薬剤部長

〒980-8574 仙台市青葉区星陵町1-1

----- Original Message ----- From: "白石 正"

Sent: Wednesday, March 16, 2011 2:34 PM

日本病院薬剤師会御中

山形県内は大きな被害は出ておりませんが、福島方面から山形へ避難するヒトが多くなっており米沢付近のホテルは満床とのことです。

医薬品、医療材料が不足しており、これはガソリン不足と連動しています。

院外処方日数を最大14日間として薬剤の消費節減をしました。

県内の患者でガソリン不足のため来院できなく処方薬がなくなっている患者に対応するため、当院では電話で処方依頼があった患者については、医師が処方箋を書き、FAXによって患者へ送信、近隣の応需薬局で交付してもらうことにしました。後日、本処方箋を医事課から応需薬局へ郵送します。このことは県内の病院薬局長へFAXするとともに県薬剤師会にもFAXし、応需薬局での対応をお願いしています。

本日から計画停電が実施されますが、(山形市は17時～20時)院内の医師に対して院外処方
は16時までに終了するよう要請いたしました。

以上ですが、薬剤部メモを参考までに添付します。

山形県病院薬剤師会

会長 白石 正

山形大学医学部附属病院薬剤部

----- Original Message ----- From: "菅原信幸"

Sent: Wednesday, March 16, 2011 4:30 PM

秋田県病薬の菅原です。

秋田県の現状を報告いたします。

このたびの地震による各病院の被害はありませんでした。人的にも問題ありません。①薬品の供給について

現段階では若干の遅配はありますが、特に入手困難な状況ではありません。ただ、ガソリン不足により、中央からの輸送が遅れていますので、今後はどうなるかわかりません。

透析液などの水物は逼迫している状況です。

麻薬については現段階では問題ありません。

②衛生材料について

各施設とも衛生材料の不足に悩まされています。手術を延期した施設もあります。衛生材料の搬送は緊急車両になっていないとのことで、日病薬からも、緊急車両に指定していただくよう働きかけてください。

③ボランティア派遣について

今日会員にお知らせしました。県薬剤師会からは、明日3名石巻赤十字に派遣します。

ガソリン不足が秋田でも深刻になりつつあります。その影響が今後の物流に大きく影響してくると思われれます。

〒010-0001 秋田市中通6丁目1の21

(医)飯川病院 薬剤部長 菅原 信幸
